



気が付けば年の瀬を迎え、冬の寒さも本格的になってきました。12月の小児科病棟ではクリスマス会が行われ、入院中の子どもたちも笑顔で楽しい時間を過ごしていました。今年は年末年始が9連休となり、インフルエンザの流行も重なって、休暇中も忙しくなりそうです。皆様、体調に気を配りながら、力を合わせて乗り切っていきましょう。

さて、今回的小児科通信では、小児科病棟の行事や医局員の先生方の学会参加報告などを掲載しています。ぜひご覧ください。

## ～11月・12月の医局行事報告～

### 11月 桑村先生による学位取得報告会

内分泌かく乱作用を有する可能性がある、ビスフェノールAジグリシジルエーテル (BADGE) およびビスフェノールFジグリシジルエーテル (BFDGE) は静脈内セット、注射器などの医療機器にも使用されています。本報告会では、NICU 入院歴のある乳児の血清中のBADGE、BADGE誘導体、およびBFDGEの濃度を測定し、それらに影響を及ぼす要因を検討した研究内容について、発表がありました。

また、学位取得に至るまでの経緯や、家庭との両立などの経験についてもお話しされました。

### 12月 令和7年のまとめの会

今年は、小児科で亡くなられた症例について振り返りのカンファレンスを行いました。医師だけでなく、患児に寄り添ってきたコメディカルの意見も共有しながら、私たちに何ができたのか、また、さらにできることはなかったのかを皆で考えました。グリーフケアを含め、まだまだ取り組むべき課題が多いことを改めて実感しています。今回の学びを、今後の診療に生かしていくたいと思います。

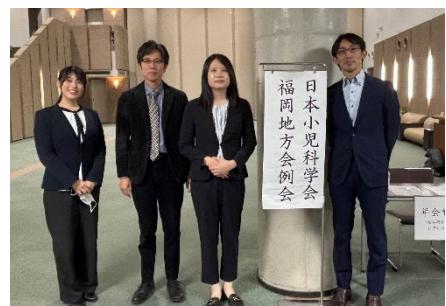
### 12月 感染・免疫グループのクリニカル・カンファレンス

「周産期感染症 up to date」のテーマでクリニカル・カンファレンスが行われました。

近年梅毒患者の増加に伴い、ここ数年で先天梅毒も増加しています。早急な対応が必要とされており、ガイドラインを中心に、本邦における治療方針やその根拠について学ぶことができました。

## 12月 第531回日本小児科学会福岡地方会例会（九州大学医学部百年講堂）

3年目の佐藤先生が小児外科の分野で、藤本先生が神経の分野で、それぞれ発表しました。また、宮本先生、緒方先生が、座長の責務を果たしました。皆さん、堂々とした発表、司会でした。



### ～小児科病棟でのイベント～

#### 12月 クラウンシロップさん・にゅすこさんの訪問

6月に続き、12月も小児がん経験者の道化師 クラウンシロップさんが、猫のにゅすこさんと一緒に小児科病棟に遊びに来てくれました。バルーンアートや囁回し、マジックを披露していただき、子どもたちや付き添いのご家族、また医療スタッフまで笑顔にしてくれました。



#### 12月 病棟クリスマス会

今年もサンタ協会公認のサンタクロースさんが病棟に来てくれました。サンタさんからプレゼントを受け取った子どもたちは、目をキラキラさせて大喜びでした。

午後にはクリスマス会が開かれ、クリスマスソングをみんなで歌ったり、ハンドベルの演奏を聴いたりして、楽しい時間を過ごしました。看護師長さんと仲間たちによるユーモアたっぷりの劇もあり、病棟は笑い声に包まれました。また、医学部の学生さんによるギターとマンドリンの演奏もあり、病棟はすっかりクリスマスマードに。

多くの皆さんのご協力のおかげで、子どもたちにとって笑顔あふれる一日となりました。  
ありがとうございました！

## 12月 病棟クリスマス会 ～みんなの様子～



### ～11月 12月の医局内イベント～

学生さんの中には、小児科通信を読んで学会参加してくれた方もいらっしゃいます！興味のある方は、ご連絡をお待ちしております★

- 1月 八幡地区小児科医会新年会
- 1月 膜原病グループのクリニカル・カンファレンス
- 1月 セミナー（斎藤祐介先生）
- 1月 小児科同門会

★クリニカルカンファレンスとセミナーは Zoom 参加出来ます。参加してみたい方は、守田 (h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

### ～論文掲載情報～

1. 川村 卓、神田 里湖 助産師による母親への新生児スキンケア指導の影響：単施設ランダム化比較試験. 日小ア誌. 2025.12

## ～医局員からのメッセージ～

医師6年目、小児科4年目の煙草谷ひかるです。腎臓班に所属しております。大学で1年間、北九州総合病院で2年間勤務し、今年の4月から再び大学に戻って後期修練医として研鑽を積んでいるところです。この1年間はBチーム、NICUと半年ずつ回っていて、12月現在、NICUという緊張感ある臨床現場でありながらも、かわいい赤ちゃんたちに囲まれて毎日楽しく診療をさせていただいています。

小児科のいいなと思うことの一つは、当然のことではありますが、成人では神経内科、血液内科、内分泌内科・・・と診療ごとに科が分かれているところが、小児科ではだいたいは科内で完結することができるということです。グループごとに分かれてはいますが、一つの疾患・一人の患者さんを他グループにまたいで診ることはよくあることで、「みんな」で診療をすることが多いように思います。何か困ったことがあるとき、隣にいる先生にすぐに相談することができ、日々とても頼もしく感じています。一方で、いろんな先生にご指導いただく中で、小児科医として年数を経ることに「なにか自分もスペシャリティを身につけなければ」とより強く思うようになった今日この頃です。今現在12月中旬・・・実はあと1週間後頃にまずは私が小児科専門医になることができるかが決まりますが、どちらに転ぶかはこの小児科通信が届いている頃にはわかっていることでしょう・・・。まずは小児科専門医！ですが、これからも研鑽を積み、さらに、自分の強みを手に入れて、日々の診療に、目の前の患者さんたちに還元していきたいと思います。稚拙な文章になってしましましたが、最後まで読んでください、ありがとうございました。いつか皆さんと一緒に診療できるのを楽しみにしています！みなさん、良いお年を！

↓専門医試験終了後、開放感に満ち溢れた写真



小児科通信に関してご意見や感想があれば守田 (h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

～次号もお楽しみに～